

■ラオス：建設中のセピアン・セナムノイ発電所のダムが決壊

2018年7月25日の現地報道などによると、7月23日夜、ラオス南東部アタプー県で建設中のセピアン・セナムノイ水力発電所（出力41万kW）のダムの一部が決壊し、付近の村が土砂流に襲われた。これにより6,600人以上が被災した模様である。同発電所は韓国企業2社（SKエンジニアリング、韓国西部発電）が権益の過半（51%）を占め、その他にRatchaburi Electricity Generating Holding（タイ）およびラオス持株公社（LHSE）も参加している案件である。同発電所は2019年初頭の運開を目指し、建設の最終段階にあった。